

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会  
〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

## 宇野重吉さんと久保山局長

### 寿岳章子

私は、つい最近なくなられた宇野重吉さんが大好きでした。大ていの日本人はみなそうでしょう。そうみがきたてたようなハンサム男ではないけれど、あの凸凹のはげしい不思議な顔、細かいけれども実にデリケートに物を言う目、しなやかなからだつき。それに、何と書いてもあの声はすてきでした。深く、やさしくて、どこかひょうきんで、大声でわめかなくてもこっちの心にしみこんでくる魅力的な声でした。

だから私は、民芸の芝居の舞台でも、さらに宇野重吉出演の映画、あるいはテレビ、みんな一所懸命にみたのです。とりわけ、死を目前に控えて、たとえば四国への旅興行の状況が、NHKから、さながら宇野重吉一座の必死のドキュメントドラマとして放映された時は、もう食い入るように見入ったのです。おそらく、そのドキュメントの主役たち、放映したNHKの人たち、そして日本中の宇野重吉さんを愛する人々は、やがて別れる時が来ることを確実に予知していたでしょう。

私は目にも胸にも涙がいっぱいでした。確実にガンでやがて死んでゆく人の、むしろ陽気な最後の人生の舞台に至るまでのさまざまな足跡。私は自分の知るかぎりの重吉さんのさまざまの演技をおのずか思い出していました。

とりわけあらためてその意義を確認する一つの映画を思うのです。たしか題名も「第五福竜丸」ではなかったでしょう。久保山局長に宇野さんが紛らわしていました。私はあの映画を、京都の丹波のある農村の公民館で、憲法の勉強をしようと集まった皆さんの農村婦人といっしょに見ていました。そんな会場ですから、あまりいい映写条件ではありませんでした。しかし、みなすごい感動ぶり。ぴしーとした厳肅な雰囲気。久保山さんが死に、核廃絶への思いが語られて映画が終ったとき、私はどうしようもない感情におそわれていました。すぐ私のあいさつという進行になっていましたから、私は立ち上がり、その思いをことばにしようとしたのですが、涙が後から後か

らふきでできて、ことばにならないのです。むしろ嗚咽。ぐっとこみあげてしまうのです。

それでも私は必死に、ヒロシマ・ナガサキに次ぐ福竜丸被災の意味を話しました。地球の平安のために、おそろしい核実験をとにかく止めさせる努力を。私の気持はみんなにもわかって頂け、同じく涙でほほをぬらした人たちが次々と発言しました。平和憲法を守るといふことは、単に平和、平和と叫ぶのではなく、具体的な行動で裏付けましょう！ こんな悲惨な事実を生み出しつづける人間の行為を止めさせるために、みんなが何かしなくちゃ、まずわたしはポケット憲法(かつての京都府知事嵯峨川虎三氏が府民へくばりつづけた小さな憲法の本)を鏡の引き出しにしまいこんでしまったままだけ、今日帰ったらすぐそれを出して、いつでも読むようにします。九条大切！ 婦人たちのことばはいつまでもつづくのでした。

私はまだ福竜丸をたずねてはいません。いつかたずねる日には、そこで重吉さんが久保山さんとして甲板でほほえんでいるにちがいないと夢見ています。「夢の島」の夢は、私にとってそんな意味があるのです。

(国語学者、元京都府立大学教授)



## 平和協会設立15周年を祝う

六月二十日、東京・日比谷公園の松本楼で、協会設立15周年記念集

会が開かれ、関係者四九名が出席しました。三宅会長のあいさつ、への期待を語りました。田沼理事の会務報告について小川・川崎理事の司会で参加者が次々に祝辞をのべ懇談しました。仙台から駆けつけた塩川孝信氏は、焼津帰港後最初に船を守った科学者の願いについて

青い 青い  
すなみ みなみの  
まっ白い うみで  
レース

## 第五福竜丸をとらえる……

作品介绍⑥  
いぬいとみこ

のふちかざりを つけていると始まる、いぬいとみこさん(童話作家・東京生まれ)の『トビウオのぼうやはびょうきです』(一九五四年)は、第五福竜丸をとらえた、最初の童話である。敗戦の年、いぬいさんは山口県の柳井で保育園に勤務していた。広島から約六十キロ離れたその町で、八月六日、ぐうぜん原爆の光を保育園児たちと見たが、あの光が二十万人の人びとを生きたがら焼いた原子爆弾の閃光であった

ことを、初めて知らされたのは六年後『原爆の子』を読んだ時であった。いぬいさんは、人類の上に再び核兵器が落とされぬようにに……という願いをこめて、同人雑誌に『川とノリオ』(一九五二年)を発表した。一九五四年、『時事新報』から生まれてはじめての原稿依頼がきた。ちょうど第五福竜丸の被災が新聞、ニュースで日本人たちに大きな衝撃を与えていた頃だった。いぬいさんは、幼い子に、原水爆の恐ろしさを訴える童話を書きたいと思いついた『トビウオのぼうや……』を書く。(四月二十日、掲載五月二日)。この作品は、なにも知らずに死の灰を浴びてしまったトビウオの子を主人公に、愛するものを失う悲しみを通じて、原水爆の恐怖、平和の大切さを伝えている。そして、副教材として学校や保育園で読まれ、教科書にも載せられ、多くの子供たちにも読まれてきた。その後、絵本(金の星社・八二年)、アニメーション(翼プロ・八二年)、かみしばい(童心社・八五年)にもされ、絵本は、すでに二十一刷され計十万余部を越えるロングセラーになっている。



だが、最近、来年から使われる小学校二年生の国語教科書から、この作品が検定で外されることになった(七月一日・読売新聞)。この童話を書いたとき、ことばとしてそれを一言も書かなくてもその思いは通じる、という確信がありました。世論に支えられて『叫び』の部分を背景にひそませたこの作品は、いま、生きかえろうとしています。核兵器の脅威は、南太平洋の人ばかりか、地球全体のいきものを全滅させるほどに増大していますから。「トビウオのぼうや」の生命を憂えることは、私たち全体の問題となっているのです。との、いぬいさんの言葉に共鳴する人は少なくない(S)。



平和随想 (六)

三宅泰雄

ビキニ水爆被災事件については、すでに多くの研究結果が公表されています。しかし、当時の事件を担当した政府側の対応については、案外、よく知られていないようです。

私の親しい友人の一人に、そのころ文部省の高官であった岡野澄さん(東京工業専門学校名誉教授)がいます。その岡野さんが、一九五五年発行の「学術月報」(日本学術振興会刊、第七巻、第一〇号)に、「第五福竜丸の買上げについて」という文章を載せています。ここでは、岡野さんの報告にしたがって、当時の政府のうごきや、第五福竜丸の動静などについて、記しておきたいと思えます。第五福竜丸がビキニ海域で被災し、急いで母港の焼津に帰ったの

は一九五四年三月十四日のことでした。早くも三月十六日の読売新聞で、乗組員全員が、重い放射能症にかかっているらしいと報道されました。

これに驚いた政府は、三月十八日、厚生省次官室に対策委員会を招集しました。岡野さんは東大の中泉正徳教授から、この問題は学術にも深くかかわっているから、文部省からも責任者を出すようにとの要請を受けました。

政府はさらに、この問題の一括処理のために、内閣のなかに「第五福竜丸事件前後措置に関する打合せ会」を設けました。議長は国務大臣・安藤正純氏、委員は関係各省の次官、幹事は同じく関係各省の局長で構成されました。

この打合せ会で慎重に審議した結果、第五福竜丸を政府で買い上げることとなり、経費は予備金から文部省予算で計上することとした。文部省は水産庁、大蔵省とも協議し、二千万円で船を買い上げ、その内訳として代船購入費千八百八十八万円、破損物品購入費二百八十二万円と決めました。船は当分の間、焼津港におかせてもらうよう、静岡岡県事に頼みました。しかし、地元の人たちの

間では、漁価の暴落などのため、船に対する憎悪感、反感がつのり、一日も早く船を追払ってくれと、県に強要してきました。板ばさみ取ってほしいと、文部省に要請してきました。文部省は県と折衝した結果、ようやく五月十七日から三ヶ月をかぎり、第五福竜丸を焼津におかせてもらうことになりました。

その間、船のロープ、器材、船材等を、トラック三台につみこんで、東京大学にはこびこみしました。六月七日には、海上保安庁にたのんで、船を港内でも、支障の少ない、いわば、目だたぬ場所に移してもらいました。

静岡県との約束は、八月十六日できてしまうので、回航場所については頭をいため、結局、品川の東京水産大学の構内に移すことにしました。幸いにも、ここは、直前に、米軍施設の使用解除となつたばかりでした。東京にむかっていた船の回航は八月十五日ときめました。あいくの台風襲来のため延期。ようやく、八月二十二日になって、海上保安庁の巡視船「式根」で東京につれてくることになりました。

しかし、目的地の東京水産大学構内までは、途中の運河が浅く、船の引き入れは困難なことが分かりました。やむなく、船を、一応越中島の隅田河岸につなぎ、品川運河のしゅんせつをまわって、ようやく第五福竜丸を、品川の東水大構内に移すことができたのです。岡野さんは、その頃の第五福竜丸のことを、「病みつかれた病人のように、痛々しい姿で、鈍い夕日を浴びている」と述懐しています。

その後は、放射能の減衰を待って、東水大の練習船に改装するために、伊勢市の強力造船所にまわされ、一九五六年八月に、東水大にもどって、船名も「はやぶさ丸」と改称されたことは、すでに述べた通りです。

私はかつて、「船の運命は、人間のそれに似ているようだ。人間がそうであるように、船もまた、その一生の間に、悲喜ともにもの体験をしなければならぬ」と述べたことがあります。私は、岡野さんの書かれた記録を読み、改めて、第五福竜丸の数奇な運命について、考えないわけにはゆきませんでした。

SSDⅢ関連集会以ビキニ被災者の実態を報告

高知からニューヨークへ

西村雅人

第8回国連軍縮特別総会の関連集会以参加して来ました。目的は、ビキニ被災の実態を世界に知らせることと、世界の核被害者と手を結び合い、情報交換することでした。

「被災船員の会」発足とアトミック・ソルジャーの医療補償実現

出発に先立って二つの重要な出来事がありました。一つは、五月十一日、全国に先がけて「高知県ビキニ被災船員の会」(会長・稲妻昂氏)が発足し、県や国に対して被災者調査や医療費の補助等の要請を始めたこと。もう一つは、アメリカでアトミック・ソルジャー(ビキニやネバダ等で被ばくした25万人の米退役軍人)への医療補償を認める法案が上院下院とも可決し、レーガン大統領が五月二十日、拒否権行使を断念してこれに署名したことです。

前者は日本のビキニ被災に関する歴史上で画期的な出来事であり

後者はアメリカ政府が核実験と放射能障害についての因果関係を事実上認めたという点で、展望を拓く決定です。

この二つの素晴らしい出来事に励まされながら、五月三十日、成田を出発しました。

若者の中に強い反核意識

ニューヨークは、ストリートパフォーマンスのメッカです。私もマジンソン・スクエア・パークの入口に、第五福竜丸事件・高知のビキニ被災者・ロンゲラップ島民などに関する写真や図を展示しました。多くの市民が立ち止まって、それらを見ていました。何人か一人位の割合で、「これは何ですか」と質問して来ました。私が話した人々は皆、ヒロシマとナガサキは知っていましたが、ラッキードラゴン(福竜丸)を知っている人は、まだまだ少ないようです。それでも中には、とても良く知っている人も数人いました。

福竜丸を知っている人は必ずロンゲラップ島民のことも知っています。このあたりは日本とは違うようです。太平洋核爆発地点の図をメモする青年。現在の核実験場であるモルロア環礁やファンガタウア環礁への関心を示す青年。総じて若い人々からは反核の意志がストレートに伝わって来て、私も話していて手応えを感じ、うれしく思いました。

アメリカの反核・平和・環境・人権等さまざまな団体の調整組織、全米連合の主催する国際会議に参加することが出来ました。「核兵器の廃絶と非合法性」という分科会で、ビキニ被災者の実態や高知県で「ビキニ被災船員の会」が出来たことを報告しました。高校生が「The world is an island」(世界はひとつの島のようだ)などの反核平和英文メッセージや絵を寄せ書きしたボードも披露しました。(平和ボードは主としてブルックリンの高校に贈りました)

核被害者との交流

ビキニ被災は、死の灰のみによる被害という点で原発事故とも共通しています。このため、スリーマイル島原発のあるハリスバーグ

にも行って来ました。

ニューヨークでは、全米原爆復員軍人同盟(NAAV)議長のエイシー・バードさん(49才)に会うことが出来ました。バードさんは一九五八年八月、エニウエトク環礁の核実験に参加したそうです。「私は単に自分が体験したからだけでなく、ミクロネシアの人々の生活がめちゃくちゃに破壊されたことに怒りを持っています」

アトミックソルジャーへの医療補償が認定されたことについては、「大きなハードルは超えられたが、補償対象が限定されているので一部の仲間には適用されません。従って私たちの闘いはこれからも続きます」と語ってくれました。

本格的に国際的広がりをバードさんは、高知の「ビキニ被災船員の会」とも連絡を取りたいと、組織の代表として住所を教えてくださいました。ビキニ被災者救済の活動は、今後本格的に国際的な広がりを持つかも知れない。バードさんとお別れの握手をした時、そう思いました。

(高知県立宿毛高校 大月分校教諭)